



# 新美南吉と詩

Nankichi × Step

南吉の詩は童話に勝るとも劣らず魅力的。  
地元を中心に活躍する現代の若手作家たちと詩をコラボレーションしていきます。

## 色紙

空ヲ

残シテ

奴胤ガ

落チタ

ト思ツタラ

子供ガソコカラ

駈テキタ

奴胤ノマネシテ

「奴胤化シテ子供トナルカ……」

往還ガマンナカカラ

乾キ出シ

俤デキタ紳士ガ

梅ノ枝デ

シヤツポヲ落シタ

「アチラデ光ルハ

ナアニ」

「葦ヲバメグル

水ヨ」

ソレデ今日カラ

春ダ

### 角佳央梨 紙業師(かみわざし)

紋切りの切り絵を中心に、コマ撮りアニメーション、クレヨン画、毎日の日課である切り絵+日記=日記切り絵(にっきりえ)など見た人が、楽しい気持ちになったら良いなと思い制作しています。個展を織部亭にて5/11~6/19開催。sumimope@gmail.com

### \*絵について\*

初めて読んだ時、まだまだ寒いパッとした空を感じました。何度も読んでい内に、柔らかな空気や色、帽子を被った紳士などが浮かび、それぞれのイメージを切り絵で表現しました。

### 新美南吉



にいみなんきち  
(1913-1943)

大正2年7月30日、愛知県知多郡半田町(現・半田市)に生まれる。幼くして母を亡くし、養子に出されるなど寂しい子ども時代を送る。旧制半田中学校卒業後、「赤い鳥」入選を契機に北原白秋や巽聖歌の知遇を得る。昭和18年、結核のため29才で世を去る。

### 解説

この作品は超現実的だと、言っていだろう。このような詩を読む場合、まず気を付けなければならないことは、詩が一貫してまとまりをもった一つの意味なり考えなりを伝えようとしているのではない、ということだ。

作品は、いくつかの異なったイメージがモニタージュのように組み合わせられ、全体として大きなまとまりをもっているのである。この詩をまとめている「色紙」という題名は、空の色、奴胤の色、梅の色、葦の色、水

の色、そして芽吹き始めた春全体を象徴しているのだ、と見ることが出来るのではないだろうか。

### 解説者

前新美南吉記念館館長

矢口 栄 さん

半田市、知多市、東浦町の小中学校勤務を経て'04年から'11年まで新美南吉記念館館長を務める。著書「南吉の詩が語る世界」(一粒社出版部)「子どもたちに贈りたい詩」(教育出版センター)「新しい詩の創作指導」(共著・明治図書)ほか。

### おしらせ

#### NANKICHI×ART

【期間】6月15日(土)14:00~16:00

【場所】新美南吉記念館

【参加料】無料(一部有料)

【共催】半田市観光協会、有限会社メディアマガジン、新美南吉記念館

ごんぎつねをかたどった陶器の絵付け体験(有料)や人気のごん吉くんと触れ合える(予定)イベントを開催。弊誌「Step」で連載中の「新美南吉と詩」の作品も大きめサイズで紹介。親子で楽しめる企画。来場で弊誌「Step」オリジナルフォトフレームのプレゼントも(1組1枚100枚限定)。